大日化成 ECOへの取り組み

ECOLOGY

大日化成株式会社は、環境に配慮した事業の推進を目指す企業として積極的にエコ活動に取り組み、地球環境の保全と向上に貢献していきます。

第27回全国都市緑化ならフェアを終えて

今回の弊社のコンセプトは「緑を楽しみ、利用し、生かされる」で、奨励賞をいただきました。

ヒートアイランド現象を緩和するだけでなく、見て楽しめる花の咲く屋上・壁面緑化、更には、食べておいしい屋上・壁面緑化をご覧下さいというテーマでVUS500トレイに生育できる草花類、野菜類を検討しました。

VUS500トレイでは、リーフレタスが見た目も美しく、播種後3から4週間程度で食べることができます。通常のプランターと異なって、浅く面積の稼げるVUS500トレイはリーフレタスにピッタリの環境。大きくなった株から順次摘み取ると、周辺の株が育ちます。

カーボンニュートラルとは、何かを生産したり、人為的活動を行った際に排出される二酸化炭素と吸収される二酸化炭素が同じであるという概念で、地球温暖化の主な原因の一つとして大気中の二酸化炭素濃度の上昇が問題視されるようになって頻繁に登場するようになりました。

一般に植物由来の原料を使用すればカーボンニュートラルとされていますが、製造・輸送の過程で化石燃料を使用してしまえば、排出量が上回ってしまうことが問題となります。ベランダや屋上で作る野菜は基盤の輸送に掛かるエネルギーを差し引いても生産物を食べてしまうため、カーボンポジティブ（カーボンニートラルよりも吸収量が上回る）を期待できるかも知れません。

「緑を楽しみ、利用し、生かされる」野菜栽培は、一石三鳥、正に究極のエコと言えませんか？但し、肥料のやり過ぎには注意しましょう。肥料のやり過ぎは、メタボ野菜を育てるだけでなく、植物に利用されず、流出した肥料は排水を汚染し、肥料の生産にもエネルギーが使用されているのだということをお忘れなく。

大日新聞に関するお問い合わせ・ご意見などはホームページ及び
大日化成株式会社 06-6909-6755 までお願いいたします。

スタッフ紹介

日頃は営業活動やお電話で応対させていただいていおりますスタッフの日常をお伝えいたします。

私は幼少から約25年間を大阪で過ごし、岡山県へ移り住み3年目になる大阪府出身の岡山県民です。石飛（いしとび）という苗字は珍しいと言われます。父の実家が島根県大田市というところで、数少ない苗字です。私が携わる業務ですべて塗料やコンクリート水槽用防食材であるエポキシ樹脂やポリマーセメント系塗膜防水材の開発を行っています。各製品には規格や基準値があり、その要求を満たす性能試験室が品質開発を行っています。

試験室では、様々な原料を組み合わせて各種性能的に適合した試験を行い、内容で確認できない試験項目については検査機関に依頼することもあります。又、実際の施工テストを行い、仕上げていきます。

良い材料を重ねた上でバランスのとれた配合を決定していきます。

配合を設計するのに有効な試験データですが、それだけではなく、経験やセンスが必要になってきます。特に微量でも大きく左右されやすい部分です。

営業部門を通しての客様からの対応について様々な用途で対応するのが適しているのは、コンクリート以外の防水工法や防食工法などの材料の上に当社の材料を行いたいが接着性能に関する資料などを参考にして回答させて頂いています。また、応用の施工指導や完了検査などの協力のために現場へ行くこともあります。

仕事をしていて感じるのがコミュニケーション力、表現力だと感じています。相手からの質問に対してすぐに内容や要望を理解し、最善の回答や対応ができる必要があり今の事情や状況をお伝えするのにどのような言い方、言葉を選ぶのが適していいるかという時に必要です。自分自身この点においてはまだまだ不足しているので常に反省し、努力していきたいところでもあります。

もう一つ必要なのは謙虚さだと思います。仕事は社内や社外の多くの人たちの協力によって成り立っていますので、自分一人の力では限界があります。周りの方々の意見を聞いて取り入れる事、情報を頂く事が業務を円滑に進めていく上で必要であり、最も良い製品を開発していく上で必要となります。

開発をしていく中で問題があって思うように進展しない事など色々と苦労もあります。けれども真の喜びは購入して頂くお客さんが作業性においても性能においても満足していただける商品を世の中に送り出す事です。

今の部署内で自分に与えられた役割をしっかりこなし、連携をしっかりさせて大日化成の一員としてこれからも頑張っていきたいと思います。

技術部 石飛　実

DAINICHI CHEMICAL CO.,LTD.
●本社
〒571-0030　大阪府門真市末広町 8-13
TEL：06-6909-6755(代)　/　FAX：06-6909-6702
●東京支店
〒105-0013　東京都港区浜松町1-2-5
TEL：03-3436-3801(代)　/　FAX：03-3436-3803

次号も
お楽しみに

URL：http://www.dainichikasei.co.jp

映画で学ぶ環境問題

Vol.12

ミーアキャット
（The Meerkats）

公開：2009年/イギリス映画
配給：ギャガ・コミュニケーションズ
主演：ミーアキャットの「コロ」
ナレーション：ポール・ニューマン
上映時間：85分
ロケ地：アフリカ南部のカラハリ砂漠
（ボツワナ、ナビミアなどの複数国にわたる地域）

この映画は、このコーナーでも何度か取り上げ、大自然をテーマにした「アース」や「ディープ・ブルー」でもおなじみのイギリスBBCが制作し2009年正月に日本公開されたドキュメンタリー映画です。

両手を前にだらりと下げた立ち姿が可愛く、時には「グレイ」と呼ばれる宇宙人を連想させるユニークな顔の「ミーアキャット」。その名前から、筆者はてっきり「ネコ科」の1種とばかり思っていましたが、実際はマングースの1種だそうです。

舞台は、地球上で最も厳しい環境のひとつ、灼熱の大地、アフリカ・カラハリ砂漠。主人公は、そこに住むミーアキャットの一家に新しく生まれた赤ん坊「コロ」。体長わずか7センチの彼は、両親や兄弟の強い愛に支えられ、やがてたくましく成長します。

日々仕事や人間関係のストレスに悩む私たち「人間」にしてみれば、自然の中でのんびり暮らす動物たちは、憧れの存在。自由気ままに「毎日が日曜日」なんて、どんなに素晴らしい生活だろうと思ってしまいますが、現実には毎日が「生死の分かれ目」という、過酷な実情です。

たとえばミーアキャットの世界では、メスが生涯に生む子の数は約70匹。けれど3匹のうち1匹は天敵や病気、飢えで死んでしまい、誕生からわずか3ヶ月を生き残るのさえ困難な状況とのこと。

しかも、昨今の気候変動で、生き残るために必要な「水」や「食糧」は大きく不足がち。彼らにとって、「生き残ること」そのものが、すでに過酷な現実なのです。

ミーアキャットの食糧は、主に昆虫。しかし数ヶ月間、雨が降らない砂漠地帯では、元々生物が少なく、縄張り争いなんて日常茶飯事。エサの中には猛毒のサソリもいるので、うっかり気を許してしまうと、死に至ります。まさに「命がけの食事」なのです。

小さな彼らの天敵は、猛獣のライオンのほか、踏みつぶされそうな巨体のゾウやキリン、そしてスキを狙ってくる狡猾なコブラに、空から容赦なく襲ってくるゴマバラワシなど。現にコロの兄は、彼を守ろうとしてゴマバラワシの餌食になってしまうのです。

小さな頃から、餌の取り方や食べ方、危険を察知するための処世術など、生き抜くすべをすべて教えてくれた兄。何かあるごとに、真っ先にかけつけて助けてくれた勇気ある兄。寂しい時にはしっかり抱きしめてくれた優しい兄。

その最愛の兄が、弟たちを守ろうとしてワシの餌食になってしまうのですが、これはアニメーションや作り物のCG映画ではなく、本物の動物を描いた「ドキュメンタリー映画」。こんな小さな動物の世界に、こんなに素晴らしい家族愛が存在するなど、想像つかないことでしょう。

日中は気温70度、夜間は反対に極寒の地となるこの過酷な自然の中で、撮影隊は7ヶ月にも及ぶ長期取材を、彼らの巣穴にも最先端カメラを導入するなどして敢行しました。

そのお陰で私たち人間も、彼らから「生き抜くこと」を学ぶ機会を得るわけですが、もう1つ・・・ほんのちょっとした気候変動も、彼らには死活問題であることも、この映画を通して知ることができます。

気候が変わるのは、地球や自然のバイオリズムということもありますが、私たち人間のちょっとした行動により、地球環境は大きく変動してしまうことも、認識しなければいけない・・・そんなことを考えさせられた映画です。

なお、本作がナレーターのポール・ニューマンの遺作となりました。往年のファンには、大変懐かしい声ですので、ぜひ一度ご覧ください。